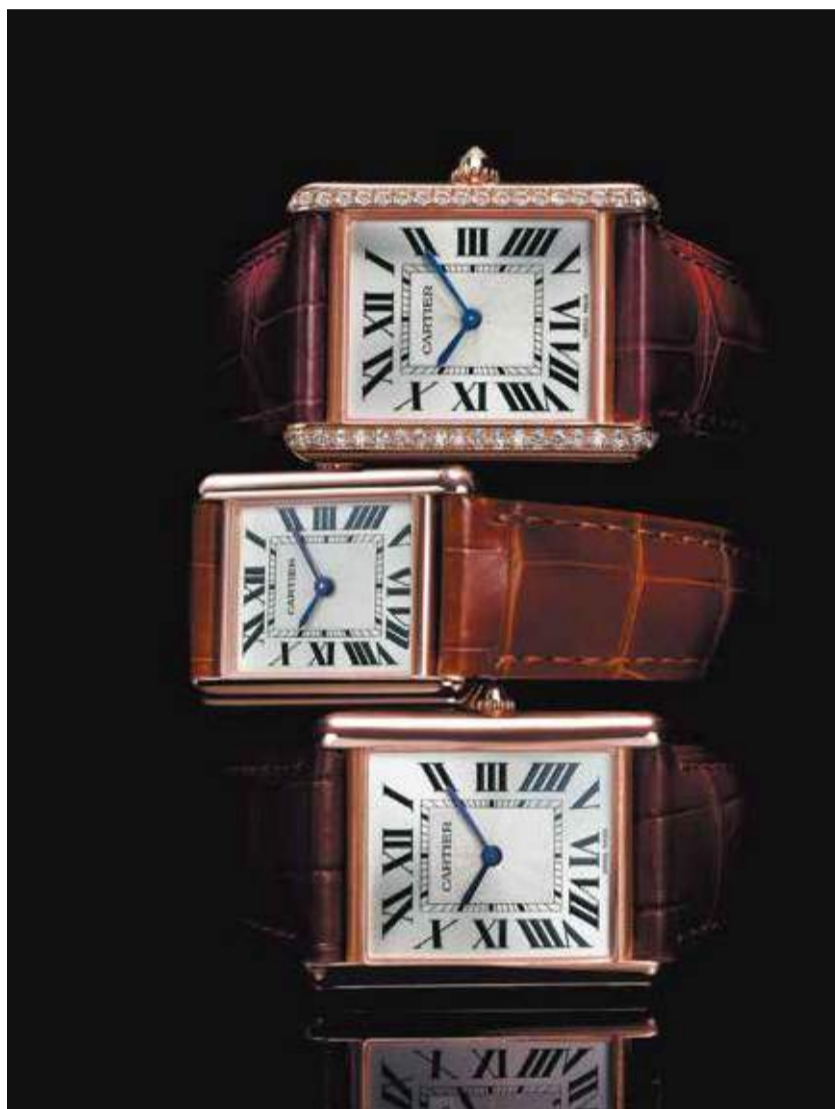


BIZ [ビズスタ] Life Style



タイムレスな引力。
カルティエ。

My Favorite Life Style



John Balsom © Cartier

「ドライブ ドゥ カルティエ ムーンフェイス ウォッチ



CRWGNM0008
40x41mm、ピンクゴールド
2,473,200円(税込)

CRWSNM0008
40x41mm、ステンレススチール
915,300円(税込)

Vincent Walverryck © Cartier

Panthère de Cartier

パンテール ドゥ カルティエ



Drive de Cartier

自然体でいて、洗練。カルティエが描く、これからの男性像。

「自分」を妥協しない男性たちへ。

衝撃のデビューから1年を経て
発表された新作コレクション

毎年、後に名品と讃えられるモデルを送り出すカルティエ。次は、今年100周年を迎える名コレクションをご紹介します。

それは年輪を感じさせる豊かな知性であったり、あるいは何ものにも囚われない自由な生き方であったり。大人の趣味の代表的分野である高級機械式腕時計の世界は、時を告げる機械に「デザイン」という概念が産まれたことで一気に深みを増した。時間を知る道具を服のようには着る現在のウォッチの愉しみは、このメソンの功績が極めて大きい。

実に15を数えたという各国王室の御用達であったことから「赤の宝石商、宝右衛門」と讃えられた「カルティエ」は、1847年パリで創業した。機構の誕生以来、時計業界は「いかに精緻なメカニズムであるかを長く競い合っていたが、カルティエは「美を味わう」というその後のスタイルを決定付けたのだ。

腕時計のブランドは、一般にムーブメントと呼ばれる機構部分の製造技術の有するウォッチメーカーと、それを包むケース部分を手がけるジュエラーに大別できる。ウォッチの大半は、両者が専門外の部分を委ね合いながら製品化されている。貴金属の分野で確固たる地位を築いたカルティエは、ジュエラーの代表格だったが、やがてムーブメントへの世界へと進出。すべての製造工程を自社内で完結することができた。世界でも数少ない「ジュエリー・ウォッチ」へと成長を遂げ、現在に至っている。

自然体で、自立し、エレガントに洗練された大人を描いた名品

今年、パンテール・ドゥ・カルティエの発表で沸いたS・I・H。だが、昨年の会場の話題をさらったのは、カルティエの男性向けコレクションだった。ドライブ・ドゥ・カルティエは、1904年から現在に至るリストウォッチ製造技術の集大成として、大きな反響を獲得。たちまちベストセラーの一角を占めるに至った。今年のS・I・Hでは、その地位をさらに踏み固めるような意欲作が発表されている。

新作を見る前に、ドライブ・ドゥ・カルティエの概略を簡単にさらしてあげよう。古典的なクッションシェイプを現代的な解釈で再構築したケースに、よく見るとヘキサゴン(六角形)を描く美しいベゼル。優雅なローマン・タイプと剣型針。ゴヨシエ彫りのダイヤル。瞬間的にはレストレップなデザイン性に見えてしまうが、じっくりと眺めているうちに、モダンな雰囲気がよく自然体のように見えてくる。いつも自然体のように見えて、その奥には洗練された知性と先端のライオンスタイルを内包する。そんな現代の男性像が浮かび上がるウォッチに仕上がっている。

その名の通り月の満ち欠けを示すインジケーターを搭載したモデルだ。同社が誇るスイス国内でも有数の「貴生産工場」が新たに開発した自動巻ムーブメント「904-LU-MC」が搭載されているが、これは125年に「日の誤差」という極めて高い精度を持つ。デザインと機構部分が非常に高い次元で融合する姿は、「真のミニム・アクチュール」を掲げるカルティエの現在をそのまま表すものだ。

その名の通り「ドライブ・ドゥ・カルティエ」は、1904年名品ウォッチは、1904年名品ウォッチ。何となく6ミリという薄さのケースが特徴。これはオリジナルモデルよりも約40%も薄い計算となるが、実はケースもひと回りコンパクトに創られているのだ。さらには快適なフィット感が期待できそう。また、着け心地もさることながら、手元を見下ろすたびに斬新な薄さを感じることができる。ウォッチに詳しい方は、どのウォッチを刺さるかに悩むだろう。

デザインは、全世界で絶賛を浴びたドライブ・ドゥ・カルティエのイメージを踏襲。クラシカルでノスタルジックなルックスに目を奪われつつ、その仕上げの美しさまでじっくりと味わうのが、大人のウォッチファンの嗜みだ。

30年後の世界に再び響く女性賛歌。

それは年輪を感じさせる豊かな知性であったり、あるいは何ものにも囚われない自由な生き方であったり。大人の趣味の代表的分野である高級機械式腕時計の世界は、時を告げる機械に「デザイン」という概念が産まれたことで一気に深みを増した。時間を知る道具を服のようには着る現在のウォッチの愉しみは、このメソンの功績が極めて大きい。

腕時計のブランドは、一般にムーブメントと呼ばれる機構部分の製造技術の有するウォッチメーカーと、それを包むケース部分を手がけるジュエラーに大別できる。ウォッチの大半は、両者が専門外の部分を委ね合いながら製品化されている。貴金属の分野で確固たる地位を築いたカルティエは、ジュエラーの代表格だったが、やがてムーブメントへの世界へと進出。すべての製造工程を自社内で完結することができた。世界でも数少ない「ジュエリー・ウォッチ」へと成長を遂げ、現在に至っている。

自然体で、自立し、エレガントに洗練された大人を描いた名品

今年、パンテール・ドゥ・カルティエの発表で沸いたS・I・H。だが、昨年の会場の話題をさらったのは、カルティエの男性向けコレクションだった。ドライブ・ドゥ・カルティエは、1904年から現在に至るリストウォッチ製造技術の集大成として、大きな反響を獲得。たちまちベストセラーの一角を占めるに至った。今年のS・I・Hでは、その地位をさらに踏み固めるような意欲作が発表されている。

新作を見る前に、ドライブ・ドゥ・カルティエの概略を簡単にさらしてあげよう。古典的なクッションシェイプを現代的な解釈で再構築したケースに、よく見るとヘキサゴン(六角形)を描く美しいベゼル。優雅なローマン・タイプと剣型針。ゴヨシエ彫りのダイヤル。瞬間的にはレストレップなデザイン性に見えてしまうが、じっくりと眺めているうちに、モダンな雰囲気がよく自然体のように見えてくる。いつも自然体のように見えて、その奥には洗練された知性と先端のライオンスタイルを内包する。そんな現代の男性像が浮かび上がるウォッチに仕上がっている。

1800年代後半には制作し、もともと宝飾商であった出自からも想像できる通り、人々を圧倒する美の世界は、女性向けのコレクションでも存分に発揮されてきた。たとえば、「パンテール・ドゥ・カルティエ」は、フュージョンカルチャーが世界的に花開いた1980年代の活気と退廃を事に表現し、人気を博した名作だ。時計とジュエリーは非常に近い関係にあるが、宝石やジュエリーと完全に溶け合うような官能的な美しさにまで引き上げたウォッチデザインは、同社の最高峰のひとつとして多くの女性たちの記憶に留まってきた。

そして、今年1月の国際高級時計展「S・I・H」で突如新作コレクションが発表され、世界中のプレスや顧客を色めか立たせた。新生「パンテール・ドゥ・カルティエウォッチ」は、さらにも美しいサジで「女性の時代」を表現しつつ、しなやかなリソンのプレズレットでフェミニンな魅力を際立てたタイムピース。ジュエリーとともに着ければ豊かに歌い、単体でカジュアルに着ればさらびなく微笑む。優美でクラシックであると同時に、に「女性の」としての精神性が波紋のように広がる複層的な「大人の美」の構築力は、さすがにカルティエとたまた息をつくしがない。

自分自身の「パンテール」と「望むものを正確に自覚し、人生の愉しみと喜びを味わう。オリジナルモデルの時代とは大きく変わった社会に贈る新たな女性賛歌。そんな同社の想いが伝わる注目のコレクションだ。

「ドライブ ドゥ カルティエ エクストラフラット ウォッチ



CRWGNM0006
38x39mm、ピンクゴールド
1,814,400円(税込)

Vincent Walverryck © Cartier



John Balsom © Cartier



「パンテール ドゥ カルティエ ウォッチ



CRWSPN0007
27mmx37mm
MM、ステンレススチール
510,300円(税込)

Vincent Walverryck © Cartier



CRWGPN0008
22mmx30mm
SM、イエローゴールド、
2,214,000円(税込)



CRW2PN0006
22mmx30mm
SM、イエローゴールド、
815,400円(税込)



CRWJPN0008
22mmx30mm
SM、ピンクゴールド、
2,624,400円(税込)



Eric Sauvage © Cartier

My Favorite Life Style

TANK

タンク ウォッチ



タンク アメリカン ウォッチ
CRWSTA0032
27x15.20mm、ミニ、スチール
364,500円(税込)
2017年11月発売予定



タンク アメリカン ウォッチ
CRWSTA0016
34.80x19mm、SM、スチール
464,400円(税込)



タンク フランセーズ ウォッチ
CRW4TA0008
25.35x20.30mm、SM、スチール、ダイヤモンド
785,700円(税込)



タンク ルイ カルティエ ウォッチ
CRWGTA0011
33.70x25.50mm、LM、ピンクゴールド
1,458,000円(税込)

Vincent Walverryck © Cartier

そのデザインを検証するには、まずシャープな角を持つフラットなケースの縦枠に注目してみるとよいだろう。下アタッチメントとの接点が見え隠れしており、非常にシンプルなラインを形成していること

男性にも女性にも愛され続ける
アイコン的なコレクション

そのデザインを検証するには、まずシャープな角を持つフラットなケースの縦枠に注目してみるとよいだろう。下アタッチメントとの接点が見え隠れしており、非常にシンプルなラインを形成していること

ルイカルティエ本人が手がけた1917年のレジェンドウォッチ

さて、今年注目のカルティエウォッチをもうひとつ紹介しておこう。上に掲載したのは、同社の眩いウォッチコレクションの中でもひととき有名な存在のひとつである「タンクウォッチ」。その歴史は、ちょうど今から100年前の1917年にまで遡る。

ルイカルティエ本人が手がけた1917年のレジェンドウォッチ

ここまで駆け足で今年の注目コレクションを紹介してきたが、カルティエの世界観は、文字や写真だけで半分も伝わらないだろう。手に取って眺め、腕に着けて確認すれば、人々が同社の製品を手放さない理由を感覚で理解できるはずだ。実物は下記店舗で体験できるので、ぜひ「美の高峰」の世界を覗いてみよう。

* * * *

タンクのコレクションには、いくつかのバリエーションが派生しており、現在は男女兼用モデルを中心に展開されている。写真右の「タンク ルイカルティエウォッチ」は、ルイ自身も愛用したというオリジナルに最も近いデザインが保たれたモデルだ。左の2つは、上下方向のサイズを大胆に増して優美さを強調した「タンクアメリカン」。やはり男女兼用で、ミニモデルも追加された。中央右の「タンク フランセーズ」は、リストウォッチというよりもブレスレットウォッチと呼びたくなる美しさだ。今年で誕生100年となる「タンク」コレクション。今後がますます楽しみだ。

Biz Life Style Pick up >>>



山形屋1号館の1階「ウォッチギャラリー」のカルティエコーナーが今週末の30日(金)オープン!

250年以上も地元で愛され続けている「山形屋」が、1号館1階ウォッチギャラリーのカルティエコーナーをオープンする。最新のブランドコンセプトを導入する売場内は、より上質感に満ちた特別な空間へと進化する。オープンは、今週金曜日。100周年を迎えた「タンク」シリーズをはじめ、コレクションのラインナップも極めて充実。カルティエの世界観である「正統なる美」を肌で感じ、心ゆくまで堪能することができる環境が整う。今週末にもお出かけを。

取り扱いブランド

カルティエ、オメガ、ブライトリング、ショパール、センチュリー、クレドール、グランドセイコー、シチズン、ロンジン他



山形屋ウォッチギャラリー
鹿児島市金生町3-1 TEL.099-227-6270
営業時間/10:00~19:30

www.yamakataya.co.jp

カルティエ カスタマー サービスセンター
フリーダイヤル 0120-301-757
受付時間/10:00~20:00 無休(年末年始を除く)

www.cartier.jp